

洋書輸入協会会報

VOL. 24

NO. 8

(通巻280号) 1990年 8 月

理事会報告

6月26日(火)

(一) 5月分収支計算・予算対比表

6月15日(金)の総務委員会での審査にもとづく松井幸雄氏(丸善)の報告を承認した。

(二) 懇親旅行

6月8日(金)9日(土)の両日箱根湯元のホテル南風荘で開催された懇親旅行の参加者は、40名(32社39名他)であったことが報告された。

(三) 懇談会

定型化・固定化しているきらいのある予算編成につき会員の意見をきき、協会運営の基本的方針をきめるため懇談会をひらくこととし、日程、会場などを検討した。

(四) 文化厚生委員長の交代

三洋出版貿易より文化厚生委員長を辞任したい旨の申し出があり、これを了承して、後任を洋販に要請、同社で考慮することとなった。

(五) 個人会員制

正会員、賛助会員、出先き会員のほかに個人会員制度を設けてはどうかとの意見が出され、総務委員会で検討することとなった。

(六) その他

三洋出版貿易の取締役社長服部久利氏および取締役営業本部長前原寧夫氏からそれぞれ就任の挨拶があった。

7月10日(火)

(一) 6月分収支計算・予算対比表

7月6日(金)の総務委員会での審査にもとづく松井幸雄氏の報告を承認した。

(二) 懇談会

9月17日(月)午後1時から4時まで学士会館(本郷)で開催することとなった。テーマは大別して、予算と事業とにした。

(三) 書籍展示会

ドイツ書籍展示会

1990年9月7日—22日(東京)、10月3日—14日(京都)主催者Ausstellungs-und Messe-GmbHから6月27日付けで小林理事長代理あてにJBIAの協力を要請してきたことが報告され、協力する旨返事することにした。

東京ブック・フェア

7月19日—23日につき報告があった。

理事会報告	1	洋書輸入協会史(54)	3	東京の坂と橋と文明開化(4)	6
おしらせ	2	文化厚生委員会だより		Letters to JBIA その四	7
東京外郵出張所の		第52回72会ゴルフコンペ	5	広告	8
人事異動について	2	海外ニュース	5		

第2回東京国際ブック・フェア'91

1991年2月20日—22日（幕張メッセ）につき、主催者カーナース社より案内のあったことが報告された。また佐々木大刀氏（広報委員長）からカーナース社に対し、JBIA 理事会に説明にくるよう話しておいたことが報告された。

(四) 文化厚生委員長

洋販が後任を引き受けることを承認したので、洋販に決定した。

(五) その他。

おしらせ

次の通り就任通知がありましたのでおしらせします。

三洋出版貿易株式会社

社主 取締役会長 勝川悦郎

代表取締役社長 服部久利

前代表取締役社長 伊部利秋氏、前常務取締役 武田全弘氏は退任されました。

東京税関東京外郵出張所の人事異動について

平成2年7月1日付にて、東京税関東京外郵出張所の人事異動が行われました。現在、所長以下担当係官及び事務分担は以下の通りになっています。

所長 風間 隆 次長 関 亘	総務課	課 長	鈴木日出男	出張所の事務の総合的企画及び運営 通協担当：青木 友次
	輸出通関部門	統括審査官	諸田 裕次	輸出郵便物の通関事務 戻し税または還付金関係事務 外為法関係事務、証明書交付事務
	輸入統括部門	統括審査官	田中 正典	輸入通関事務の調整、評価関係事務 収納、還付金関係事務
		特別審査官	藤崎 清	無体財産権及びワシントン条約関係事務 特惠管理及び税表分類 外為法関係事務
	受理審査部門	統括審査官	高畑 利弘	輸入郵便物の受付事務 保税運送の承認、証明書交付事務 ブック通関事務
	海上輸入通関第1部門	統括審査官	小暮 文弥	海上輸入郵便物の通関事務
	海上輸入通関第2部門	統括審査官	岡 弘	同上
	海上輸入通関第3部門	統括審査官	本田 三郎	同上
	海上輸入通関第4部門	統括審査官	嶋田 秀雄	同上
	航空輸入通関第1部門	統括審査官	原 幸行	航空輸入郵便物の通関事務
	航空輸入通関第2部門	統括審査官	尾形 輝男	同上
	航空輸入通関第3部門	統括審査官	木村 英一	同上
	航空輸入通関第4部門	統括審査官	中村 正敏	同上
	税関相談官			通関相談、苦情処理 通関指導と税関業務の広報関連事務
			古瀬 隆久	
			宮尾 清美	

洋書輸入協会史 (54)

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

57 海賊版(盗版)問題(第二次)。(前号よりの続き)

57.19 第二次海賊版問題終了

昭和30(1955)年暮から翌31(1956)年にかけて、第一次海賊版問題の中心であった文献社の在庫が、同社倒産と共に破棄されないまま関西方面に流れ、関西支部の深刻な問題となった昭和31年4月以降から第二次海賊版問題が始まった。そして同年7月にはGmelinのリプリント計画が明るみに出て、世界中を騒がせることとなる。

第二次の期間中の中心対策は、あまりにも軽い現行著作権法の罰則規定を改正することと、Authorized Reprint Editionを発行することの二つであった。その後者は昭和31年11月より逐次発行され始め、前者は、昭和33(1958)年5月15日付で一部改正が公布されることをもって終結した。この間の苦労が実った喜びが5月23日の協会総会で報告され、5月24日付のJBIA No. 20の定時総会報告に次のように記されている。

記

—— 前略 ——

丸善司理事長より、各位の御協力により著作権法一部改正法案の国会通過を祝し、今後も引き続き海賊版の監視について重ねて御協力を願う要望がありました。—— 後略 ——

第二次海賊版問題はこのようにして終了したが、昭和33(1958)年3月には、全国海賊版出版業者が大同団結するとの噂も流れ、洋書輸入協会調査の同年2月現在の海賊版リストには、80タイトルが記載されているなど、この問題の将来が多難であることを思わせるものがあった。

57.20 Authorized Reprint Edition

昭和31(1956)年11月から発行され始めた正式のリプリント版は、アジア版とも呼ばれ、昭和33(1958)年2月の協会調査のリストには、22タイトルが記載されている。内訳は好学社6タイトル(すべてMcGraw-Hill)、タトル社3タイトル(すべてWiley)、丸善10タイトル(各社)、紀伊國屋書店3タイトル(Oxf. U. P.)である。

このアジア版はその後更に多くの協会メンバーその他

が手掛けるようになり、昭和35(1960)年に至ってAsian Edition Clubが結成されることになるが、その経緯はまた稿を改めることとする。

58 昭和32(1957)年度(s32.4月～s33.3月)の規約改正、理事改選、新入会員、退会者など

58.1 規約改正、理事改選

昭和32(1957)年5月22日の同業会総会においては、規約改正の案件は出されていない。

同日行われた理事の改選においては、投票の結果次の通り。

丸善株式会社	代表者	司 忠氏
紀伊國屋書店	〃	田 辺 茂一氏
福本書院	〃	福本初太郎氏
教文館	〃	北村徳太郎氏
国際書房	〃	服部 正喬氏
日本洋書販売配給株式会社(新任)	〃	渡辺 正広氏

次点

海外出版貿易株式会社

日本出版貿易株式会社

昭和31年度に理事が1名増員され、それに伴い新たに海外出版貿易株式会社が選任されたが、今回は同社は次点となり、新たに日本洋書販売配給株式会社が理事に選任された。

なお、理事長には、丸善株式会社が再選されている。

58.2 会名変更、海外出版物輸入同業会より洋書輸入協会へ

58.2.1 会名変更提案される

昭和32(1957)年9月12日に、同業会の懇談会を開催したが、その席上渡辺理事などより、現行の海外出版物輸入同業会の名称についての発言があった。その件は9月14日付の海輸第33号で次のように報告されている。

記

—— 前略 ——

尚緊急提案として本会の名称を、もっと分り易く、例えば「日本洋書輸入協会」というように訂正したらという案が、御出席皆様の大多数の御賛成を得ましたので、理事会においてよく検討し、次の総会にかけすることに致しましたから御了承下さい。(以上)

このときの論議では、英文名と日本語名の関係の問題、国内殊に官庁に対する印象の問題、当会創立以来の名称であるための郷愁の問題などが出されている。

58.2.2 新会名検討

9月21日の理事会では、早速新会名についての検討がなされ、洋書輸入協会、日本洋書輸入協会、書籍輸入協会、日本書籍輸入協会などの名称が候補に挙げられている。

その後も検討が続けられたが、結局案を二つに絞り、それについて全会員より意見を聞くということとなり、12月20日付海輸第39号で、次のようにアンケートが求められた。

記

本会日本語名変更について

前回の懇談会にて御出席会員全員の御賛同を得ました本会会名変更の件、下記2点の内御賛成の多い方に改めたいと思いますから、御多忙中恐れ入りますが同封葉書にて折り返し御返事願います。尚この御返事をもって来年1月より実施致し、総会には事後御承認を得たいと思いますから御含みおき下さい。

洋書輸入協会

海外出版物輸入協会

58.2.3 新会名決定

12月18日に同業会の懇談会を開催、アンケートの結果を発表の上次のように決定したことが、12月20日付の海輸第41号に掲載されている。

記

—— 前略 ——

会名変更の案は、

洋書輸入協会 28票

海外出版物輸入協会 4票

で、当日席上で、日本洋書輸入協会という提案もありましたが、結局「洋書輸入協会」と呼称することと決定しました。明年1月1日から変更致しますから左様御了承

下さい。

これに伴う規約の変更は、次の総会にはかりますから御含みおき下さい。—— 以下略 ——

なお、英文名は、従来通りJAPAN BOOK IMPORTERS ASSOCIATIONとし、変更を加えないこととした。

58.2.4 文書ナンバー変更

会名変更と共に、昭和33(1958)年1月より、洋書輸入協会発の文書には、従来の海輸No.____の表示に代り、JBIA No.____と表示することになった。

58.3 代表者、社名、住所などの変更

(1) ナウカ株式会社(代表者変更)

昭和32年4月付、海輸第11号で、それまでの代表者大竹博吉氏が、久保 襄氏に変更された旨会員に通知されている。

(2) オリオン商事株式会社(住所変更)

同じく海輸第11号で、千代田区神田神保町1—59へ住所変更した旨、会員に通知されている。

(3) 日本洋書販売配給株式会社(住所変更)

昭和32年4月19日付、海輸第13号で、千代田区西神田2—5へ住所変更した旨、会員に通知されている。

(4) 東京中央書籍株式会社(社名及び住所変更)

昭和33年1月30日付、JBIA No. 2で、それまでの新生社が、東京中央書籍株式会社と社名を変更し、また千代田区神田小川町3—8へ移転した旨、会員に通知されている。

58.4 新入会員

(1) 株式会社 医学書院 文京区本郷6—20

代表者 金原 元 創立 昭和19年8月18日

資本金 220万円 従業員数 116名

昭和32年5月13日付 海輸第15号により会員に通知

金原寅作氏がドイツ書の輸入を始めたのが明治14(1881)年のことであり、医学書の出版を始めたのが翌明治15年であった。そして合名会社金原商店の創立が

明治41(1908)年である。昭和19年8月18日に日本医学雑誌株式会社が創立され、金原一郎氏(寅作氏の孫)が常務に就任。昭和22年には書籍部門の発行所として株式会社学術書院が創立され、次いで販売会社としてメディカル サービス ステーションが独立。昭和25(1950)年にこれらが合併して株式会社医学書院が誕生。専務に金原 元氏(一郎氏の子息)就任。翌年金原一郎氏が社長に就任。

昭和27(1952)年に、Otto Schäfer氏に会った金原 元氏は、洋書輸入開始を決心して早速実行に移した。後に洋書輸入業界で著名な存在となる椿 孝雄氏は当時販売の担当であり、金原 元氏亡き後に社長となる長谷川泉氏は専務であった。

医学書院の洋書が飛躍的に発展したのは昭和30(1955)年京都の医学会総会の折の展示会のときである。(医学書院 四十年1944—1984、金原 元1924.1.1—1978.9.9より) (続く)

文化厚生委員会だより

第56回72会ゴルフコンペ 箱根園ゴルフ場

梅雨入りする寸前の6月8日、好天に恵まれた箱根で72会コンペが行われました。眼下に芦ノ湖を望み、スコアの良い人はゴルフと眺望の両方を楽しむことができました。グリーンがまるで見えず、芦ノ湖に向かってティーショットをするようなホール、どんなに飛ばない人でもティーショットでドライバーを使っただけのホール、スキーのゲレンデのようなホールとバラエティーにとんだコースでした。

今日は恒例の協会懇親旅行の日。ゴルフだけに参加の方、この後宴会に参加の方、合わせて16名。中林さん(日賀)、押田さん(丸善)、田中さん(マグロウヒル)、福山さん(三菱総研)ら初参加の方が4人もいて馬券の読みにくいコンペとなりました。いつもはネットでオーバーパーしていても優勝のチャンスのあるこのコンペ、今日は少し違う。レベルを上げたのは久々に参加の内山さん(日賀)。それ程楽なハンデではないのに前半終って4アンダーと絶好調。そして最終組から同じ4アンダーで田中さんともびったり。もう後半の話題はこの2人。そし

てゴール前鼻差で女神は田中さんにほほえみを投げかけました。

優 勝	田中正昭(マグロウヒル)	50, 51	Net 65
準優勝	内山芳正(日 賀)	40, 42	Net 66
3 位	福山正治(三 菱 総 研)	41, 42	Net 72

ベストグロス 内山芳正(日賀) 82

ド ラ コ ン 内山芳正、中村勲(国際書房)

ニ ア ピ ン 内山芳正、和田茂(大洋) (S.W.)

海外ニュース

「リッピンコット社売却さる」

ロバート・マードックが率いるニューズ・コーポレーションの系列出版社ハーパー・コリンズは、傘下のJ.B. Lippincott社をオランダのWolters Kluwer社に2億5千万ドルを超える金額で売却した。

このLippincott社は、1792年に創立、1978年にHarperのグループに入り、1987年にHarperともどもNews Corporationに買い取られていた。言うまでもなくアメリカの三大医学書出版社の一つで、年商約1億ドルをあげている。

マードック・グループはこのところ急激に業績を悪化させ、ニューズ・コーポレーションの負債はすでに約65億ドルに達しているという。この赤字の一部を解消するためにリッピンコット社が売られたわけだが、名声ある出版社だけに、その買収には、アメリカのサイモン・アンド・シュースター、フランスのグループ・ド・ラ・シテ、イギリスのピアソンとリード、カナダのトムソン・グループなどが名乗りを挙げ、激烈な競争となった。当初売り値は1億ないし2億ドルと目されていたが、結局オランダのクルワーが2億5千万ドル余で獲得した。

このウォルタース・クルワー社は、学術書専門書の大出版社で、昨年は約10億ドルの売上高で、純益は7,500万ドルをあげていた。今度のリッピンコット社の買収により、同社のアメリカでの売り上げは約2億ドルになるという。

(N.Y. Times 5月22日号他より)

東京の坂と橋と文明開化 (5)

『小さな水郷』の築地〔2〕近代印刷の幕明けと活字の発祥

丸善・本の図書館 鈴木陽二

万年橋は晴海通りにあって、銀座と築地を結ぶ。江戸時代は、この橋を渡って築地を真っ直ぐに貫く道はなかった。築地一帯は旗本や大名屋敷で占められていた地域で、道は築地堀やなまこ堀などが連なる間を曲折していた。明治17年頃になると、万年橋を渡った道は隅田川方面に伸びて西本願寺（築地本願寺）まで通じる。話は飛ぶが、この西本願寺の近くに明治3年の頃、参議大隈重信の邸宅があった。その屋敷には井上馨、伊藤博文、前島密、五代友厚、渋沢栄一など、血気盛んな連中が集まって日夜急進的な議論を戦わせ、そこで次々と新制度を生みだしては大隈侯がその実現に采配をふったという。この邸が「築地の梁山伯」と呼ばれていたことを、矢田挿雲は『江戸から東京へ』で紹介しているが、築地とはまことに面白い、また、不思議なところである。

休日の築地は妙に静まり返っている。松竹会館の丁度裏手、晴海通りの喧騒から離れて入り込むと、殊更に静けさを感じるいっかくに「活字発祥の碑」が、皐月の花に囲まれて立っていた。ここで日本における近代の活版印刷と活字の歴史について触れてみたい。日本に活版印刷が入ってきたのは天正18年（1590）でイエズス会の巡察師ヴァリニアーノによってもたらされた。グーテンベルクによる活版印刷機の発明が1450年頃であったので、それから140年という意外に早い時期にわが国に伝えられた。その後秀吉による伴天連追放令から始まった長いキリシタン弾圧と鎖国によって活版印刷の進路は途絶えてしまう。幕末になって、欧米の先進文化の流入が活発となってきた中で、長崎のオランダ通詞本木昌造は大変な苦労を重ねて独自に「流し込み活字」を鑄造し、嘉永4年（1851）『蘭和通弁書』をなんとか印刷して、ようやくわが国でも近代活版印刷の幕明けが告げられることになった。その後安政2年（1855）には活字判摺立方取扱掛に任命されるなど、活字・印刷の研究、改良に取り組んだが、活字鑄造の適切な方法が見出せず苦慮していた。

ヘボンの辞書が上海で印刷されたことは前に述べた。印刷は米国長老会が上海で経営する「美華書館」でおこなわれたのであるが、この印刷所の監督にはウィリア

ム・ガンブルというアメリカの宣教師があたっていた。明治2年（1869）ガンブルは米国への帰国の途中で長崎に立ち寄った時、フルベッキの紹介で本木昌造に新式の電胎母型製造から活字鑄造の技術および規格を伝え、ここにおいて、わが国における活版印刷の基礎が築かれ、本格的な印刷文化が始まることになったのである。明治3年に本木は長崎に活版印刷所「新街印刷所」を設立し、翌明治4年に平野富二を迎えて東京に出張所をだし、活字販売を開始した。そして、明治5年には「長崎新塾出張活版東京活版所」を開設して活字の製造、販売と共に印刷機械の製作も本格的に開始した。これが、後に「平野活版所」となり、さらに資本金8万円、従業員175名の大会社「東京築地活版製造所」となる。ところで、われわれが普段接している和文活字は明朝活字である。明朝体活字はガンブルが上海からもたらしたもので、平野富二は明治12年から28年の間に4回にわたり改刻を行って「築地体」と呼ばれる均整のとれた美しい明朝体活字を作りだした。一方、現在の「大日本印刷」の前身である「秀英舎」（勝海舟が名づけたという）は明治9年に創立されたが、同社は、築地体を基にして「秀英体明朝活字」を作り、これらが、明朝体活字の二つの流れを形成して今日に至る。なお、「東京築地活版製造所」は明治5年の創立より66年、活字と印刷の発展に大きな功績を残し、昭和13年に業績不振のためその社歴を閉じる。

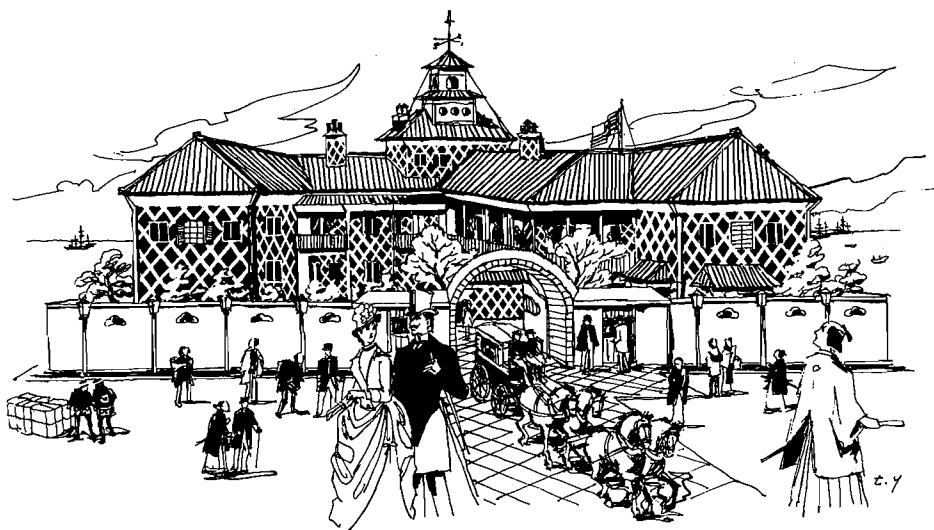
〔参考文献〕

太田愛人著『開化の築地・民権の銀座——築地バンドの人々——』1989刊（築地書館）

鍋木清方著『随筆集 明治の東京』1989刊（岩波文庫）
サイデンス テッカー，E.G.『東京 下町 山の手 1867～1923』1986刊（TBSブリタニカ）

野田宇太郎著『東京文学散歩 下町篇 上』1978刊（文一総合出版）

矢田挿雲著『江戸から東京へ 1』1975刊（中公文庫）



築地「ホテル館」往時の光景（山崎達雄氏画）

Letters to JBIA

Term : April 1989—March 1990—その四

February 22, 1990

Mr. Hans-Michael Fenderl

Ausstellungen und Messe GmbH, Frankfurt Germany

我々は9月10日に東京と京都で催される German Book Exhibitを組織する。そこで、日本の本の市場(book market)、洋書輸入業者、及びJBIAに関する情報を求めている。JBIAのメンバーリストを、その活動、サービス等の情報を含めて、送って欲しい。

February 20, 1990

Mr. Ali M. Abdel Kader, President

Sphinx Trading, Cairo, Egypt

我々は水族館などに、紅海の熱帯魚コレクションを輸出している会社で、日本の市場に関する情報を求めている。必要なお金を支払って、我々の名前を専門誌に載せたいと思う。どのようにすれば良いのか、教えて欲しい。

February 22, 1990

Mr. James La Pointe, MN, U.S.A.

私はアメリカでComic book Co.を営んでいる。どのようにして、日本の市場に進出したら良いのか、それに関する情報が欲しい。

March 21, 1990

Mr. Glenn F. Johns, President

Automobile, PA, U.S.A.

日本への我々の刊行物の供給の可能性を話し合うために、JBIAのメンバーにコンタクトすることに興味がある。メンバーリストは既に入手しているが、それぞれの会社の専門がよくわからない。メンバーのうちの誰が、我々の自動車関係の雑誌に興味があると思われるか、アドバイスして欲しい。

日付なし。

Gale Research, Inc.

International Organizations

Encyclopedia of Associationに登録するための資料

March 27, 1990

Mrs. i.A. Sabine Voll

Lange & Springer GmbH & Co.

“J. of Flow Injection Analysis (FIA)”について、発注先出版社FIA協会の正確な住所を教えて欲しい。

(終)

New 8th edition

トップレイとウィルソンの細菌学、ウイルス学、免疫学、第8版

TOPLEY AND WILSON'S PRINCIPLES OF BACTERIOLOGY, VIROLOGY AND IMMUNITY

EIGHTH EDITION

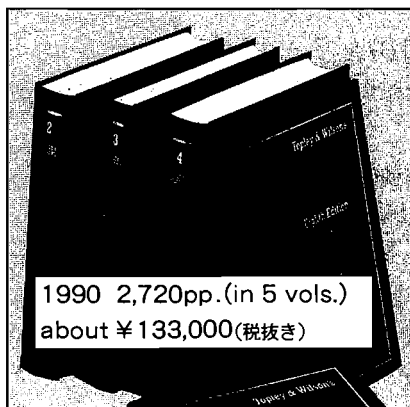
*"Once more Topley and Wilson
sets standards for us all..."*

Journal of Infection in a review of the Seventh Edition

Edited by **Tom Parker** MD FRCP Dip Bact,
formerly Director, Cross-Infection Reference
Laboratory, Central Public Health Laboratory,
London

Leslie H Collier MD DSc FRCP FRCPATH, Formerly
Professor of Virology, The London Hospital Medical
College

全5巻からなりこの分野の決定版として評価を博している本書は、医学と獣医学の広範囲にわたる研究者、大学院生、臨床医に適した、細菌学、ウイルス学、免疫学の包括的な解説書という謳い文句が的確な唯一の書である。取り上げられる情報は十分厳選されているものの、この分野の研究および臨床知識の範囲が広い範囲に及んでいるため、本書の規模は大きくなった。わかりやすく、明確な言葉で批判的な評価が行われており、専門書でありながら専門外の人にも役立つという面が見られる。最新第8版では、現在の医学の微生物学における研究で進歩している分野を反映した内容を提示する。例えば、HIV、AIDS、AIDS関連疾患などについて詳しく説明されている。また、本書を臨床上さらに役立つものにするため、抗菌化学療法を取り上げたセクションが大幅に増



えた。感受性の検査や、抗菌剤の投与による耐性のある生物の選択の原理も重視されている。本版はこれまでより大きい2コラムのページ・サイズにフォーマットが変更されたことで、本文が読みやすくなり、表やイラストレーションをよりわかりやすく配置している。さらに本テキストには、興味深い比較や歴史的な説明がうまく使われている。慎重に選ばれた参照事項が、特に議論のある問題に関して、本文を補っている。読者に主な文献を紹介するために、書評の記事がしばしば引用されている。

Edward Arnold



日本総代理店 (株)南江堂洋書部

〒113 東京都文京区本郷3-42-6 ☎(03)811-9957

1990年8月 通巻第280号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目21番4号 千代田会館5階20号室 ☎271-6901 FAX.271-6920

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎371-5329